

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301115		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム 久米 (Ⅱユニット)		
所在地	岡山県津山市久米川南2551-2		
自己評価作成日	平成 27年 11 月 27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301115-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成27年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

第二の我が家とし、利用者が自分らしく生活し満足感、達成感のある暮らしができるよう、利用者の思いや要望に寄り添い、職員と利用者と心が通う温もりのある、共有共育の生活空間が、提供出来る運営に取り組んでいる。日々の生活の中で、身体機能が改良していけるよう、24時間対応可能な協力医との連携で、利用者が体調良く過ごせるように支援しています。認知症で不安を抱きながら生活している利用者が、優しく穏やかな空気の中でそれぞれの症状がゆっくりとしたペースでと願いながら、笑顔の多い平和な日々を送っていただけるよう、職員はいつも、‘目配り、気配り、思いやり、優しい言葉で声掛け’笑顔で心に寄り添うケアを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホーム2ユニットと共に勝央町にある3ユニットのホームが(有)フロンティアの法人の下で独立して運営されるようになっていた。このホームでは総数20人の職員が配置され、日中は3～4人の職員が勤務でき、利用者には笑顔と優しさで寄り添い、手厚いケアが可能で利用者はゆったりと生活出来ていた。本来のグループホームの姿が維持でき、一人ひとりの心身の状態と意思に合った生活が確保出来ていた。利用者の表情、語らいと行動からも職員も明るく優しさが溢れて仕事出来る境遇が確保されていると察する事が出来た。法人社長の理解と指導が行き届いており、全員が一体となり、認知症ケアの基本である”心のケア”に徹する事が出来ていると思う。そして24時間対応の協力医・訪問看護・地域の人々・家族・地域の色々な機関の協力があって、利用者が安心、満足な生活ができ、2つのユニットの交流もできるようになった。(目標達成計画)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切にその人らしい生活を送って頂けるよう支援している。その為にミーティングや運営推進会議で理念の理解を深め、その人の発する言葉等を大切にし、意見の統一を図り評価を行っている。	「目配り、気配り、思いやり、優しい言葉で声を掛け、笑顔で心に寄り添おう」理念を基に、具体的な目標を立てて全職員で共有している。心穏やかにゆったりと過ごして欲しい。開設時より変わらない思いは、その日常に深く浸透していた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校や地域の行事に利用者と一緒に参加したり、地域の学生が来所したりして交流を持っている。日常的に散歩時立ち話をしたり、地域の食堂やお店に食べに出かけたり、地域の方々に関わりを持っている。	市の担当者、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、愛育委員、老人クラブや女性の会会長等地域の取りまとめ役たちで構成する地域ケア会議に今年度からホームも誘われて参加するようになった。ホームが地域からの信頼を得ている証であり、これまでの努力の賜物であると高く評価する。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症について相談を受ける事もあり、運営推進会議を通じて地域の役員の方々に認知症の方の理解・支援の方法を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の体調や生活の様子、日常の現状を報告している。また質問・意見・要望を出してもらい、意見交換を行い、検討勘案事項は改めて検討し日頃の対応に取り入れサービスの向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催し、町内会長・老人会長、民生委員、地域住民、巡査、高齢福祉課や地域包括支援センター担当者、家族等の参加メンバーにも広がりが見える。講師を招いて勉強会をする等工夫もあり、参加者にも好評だ。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者や地域包括支援センターの職員より新しい情報提供をして頂き職員にも伝えている。日頃から相談事項があれば相談し敏速な対応して下さる。	市の高齢福祉課担当者や、地域包括支援センター職員は、ホームの運営推進会議に毎回出席し、適切な指導、助言や情報提示してくれている。今年度からは更に地域ケア会議でも話し合える場が増え、より深い連携が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、ミーティング等で話し合い勉強会を開催している。職員全体で身体拘束をしないケアを理解し身体拘束防止に取り組んでいる。	運営推進会議の出席者から新聞で話題になった虐待についての話が出て、皆で意見交換した。市の担当者からホームへの苦情は遠慮なく相談するようアドバイスがあり、職員が不満を持たないホームにしよう等、具体的な話し合いができた。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり勉強会やミーティング等を実施し、情報を共有、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や尊守に向けた取り組みを行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会などが主催する研修に参加し制度について学ぶ機会を持っている。利用者也活用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明し同意を得ている。制度改定等による場合も相談に応じ、一方的な通達にならないよう確認し理解安心して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には常日頃から意見や要望また気軽に何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。要望等があればミーティングで話し合い運営に活かしていく。	家族との情報を職員間で共有できる様、「家族との情報ノート」を作成し、相互理解に努めている。運営推進会議への家族参加も多く、ホーム退所後も連絡を取り合う等、家族との関係も良い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の職員間の会話の中やミーティングで意見や提案を聞く機会を設けて反映させている。代表者と管理者は常に連絡を取り、職員からの意見を伝えている。	代表者は、日中、常時3～4名体制にする等、手厚い職員配置を実施し、働き易い職場環境を心掛けている。その思いは職員にも伝わり、信頼関係が構築できている。職員達はチームワーク良く明るく働き、離職者も少ない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも気分転換できる休息をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が積極的に受講できるように支援している。研修内容をミーティング等で報告してもらい、共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所同士で交換研修や事例検討等を通じて勉強会を実施し、サービスの質の向上に努めている。管理者の情報交換も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人に会って心身や生活状態を把握し、本人の不安や想いに向き合い、その人をよく知ろうと関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談される家族等の話を傾聴し、立場を理解しながら話し合いをしている。家族等の気持ちを受け止める努力をし、事業所としてどのような対応が出来るか双方で話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況を確認し、ホームの方針を話す。本人の改善に向けた支援の提案また情報提供を行い、職員が共有しながら対応している。また、他のサービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知る事に努め、お互いが共に支え合い、協働しながら穏やかな生活ができるよう声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子を電話等で詳しく伝え、情報交換を密に行うことで協力関係を築く事が出来ている。来訪時はご本人とご家族の潤滑油になるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けている利用者や、地域の行事に参加したり、馴染みの友人が面会に来られたりと継続的な交流を持てるよう働き掛けている。	近隣出身で、やや熟年の職員達は地域に精通し、利用者達と話も合う。地域行事に参加すれば顔馴染みとの再会も楽しめる。ホームは利用者や家族を通じて地域とより深く交流できるようになった。無理のない自然な支援が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過せる場面作りや利用者同士で馴染みの関係になれるよう職員が会話のサポートをし、コミュニケーションが円滑にできるよう調整役となって支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、支援状況や注意点など情報提供し、連携を心がけている。また、機会を作って訪問に行ったり家族からの相談にもものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で発せられる言葉や表情などから真意を推し測ったり、声かけを行い把握に努めている。また、ご家族から情報を得て話し合いを行っている。	自立歩行困難のため必ず付き添い介助が必要で、安全面からすれば車椅子使用にしたいが「まだ歩ける、歩きたい」と本人の意思を尊重し、職員間で何度も話し合い、行き届いた見守りで転倒防止に努めることにしたとの記録を見つけた。本人の思い最優先のケアが出来ている。	利用者一人ひとりについて「今後どんな生活をしたいか」「どんな趣味や手芸に生きがいを見つけてあげられるか」「家族との関係等をどのように密にした生活をしていけるか」等の意向の探索をしてはどうでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族との会話を通じ生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。また、お友達や親戚の人からの情報も大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の出来る事出来ない事を把握し、その日の状態のチェックを行い少しでも現状維持できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には日頃の関わりの中で要望や想いを聞き、本人のより良い望む暮らしを提供できるよう職員間でモニタリングしプランに反映させている。	「動かんとつまらんようになってしまうけど、ここに居たら自分の事ぼちぼち出来るし、よのしいなあ」本人・家族の言葉から意向を汲み取り、本人の状態から生活上の問題点や課題を把握し、プランに反映している。	各利用者の日々の様子は克明に記録で来ているが、欲を言えば、もう少し読みやすい工夫が欲しい。記号化や簡素化など、書き易く分かり易い様子を職員間で話し合ってみてはどうだろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに身体状況及び気付きや状態変化を記録し、職員間の情報共有を徹底しケアの実践に努めている。個別記録を基にプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて買物、通院等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域生活を継続していけるよう民生委員や愛育委員や老人会の方々と意見を交換する機会を設けている。友人や知人の面会により意欲向上が来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。2週間に一度往診に来て頂いている。必要に応じて受診の付添いも行っており、病状も家族へ報告している。	原則として受診は家族にお願いしているが、都合がつかない場合はホームでも対応している。ホームで暮らすうちに定期的に往診に来てくれる提携医との信頼関係が出来て、今では殆どどの利用者のかかりつけ医となり、より親密な連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週一回の訪問を受け、日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応を行ってもらっていることで体調の変化に早急に対応でき、病状の早期発見につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞い、家族とも状況等情報交換を行っている。退院前には病院関係者や家族等を交えてカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向、本人にとってどうあったらよいのか事業者が対応できる最大のケアについて説明を行い、医師、職員が連携を取り、方針をチームで話し合っている。	主治医よりターミナルに入るとの話があり、「是非ホームで最期を」と家族の強い希望を受け、職員間でも何度も話し合い、「皆で看よう」と職員の不安感を除く配慮をしつつ連携しながら、初めてのターミナルを経験した。家族にも感謝される良い看取りが出来た事の意義は大きい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政関係者や消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地元消防団、近隣住民の協力を得て定期的に訓練を行い、救援要請の体制づくりをしている。また、利用者の身体能力に合った避難方法を全職員が理解している。	利用者も本番さながらに参加して、火災、水害を想定した実地訓練を行った。地域の消防団や消防署の協力もあり「火が来たら、こちらに逃げなさい」いざという時には役立つ具体的なアドバイスを受けた。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものにならない言葉かけをするように努めている。また、その人の守るべき情報は決して漏らさない等、人権意識を徹底している。	「息子たちは皆バリバリ仕事をしとります」誇らしげに架空の物語を話す人に、職員達は笑顔で応じる。「さすが上手やねえ」と元バスガールは張り切って自慢の歌声を披露する。「ここはどうしたらええ？」塗り紙の上手な人は仲間に絵の先生と言われている。それぞれが自分らしく生きていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけを行い、職員側からの押しつけではなく、複数の選択肢を提案したりして、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、希望を尋ねながら気持ち良く過ごしていただけるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回訪問美容により、本人の希望に合わせた髪のカットと顔そりをしてもらっている。着替えは本人に選んでいただいたり、職員と一緒に考えて、本人の好みに沿った支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に育てた野菜を畑から採ってきて一緒に調理、盛り付けし、職員と利用者が同じテーブルを囲んで雰囲気作りも大切に楽しく食事をしている。好きなものをメニューに加えたり行事食も用意している。	「私はこんなに食べられません。少しでいい」と言う「いいですよ。食べれるだけどうぞ」職員とやり取りしつつ食べ始めた人も見事に完食。品数多く、旬の食材を活かした食事はとても美味しく、皆の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。栄養士による栄養バランスに配慮した献立と、摂取や食器の工夫等個別支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声掛け見守りをし、出来ない方に関しては、毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止等に努めている。義歯の方は、一日一回ポリデントを使用し、清潔を保つ様に心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄出来るよう支援している。	職員の手引き歩行で、ニコニコ顔でトイレまで。出来る限り車椅子は使わず、トイレへ行くのも一つのリハビリだ。医療的に毎日の排便が必須で、入院中は浣腸をしていた人が、こまめな排便コントロールで下剤の調整だけで可能になる等改善事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には腹部マッサージも心がけている。毎食時にはヨーグルトを提供しており、また、繊維質の多い食材にも気を配り、積極的に運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の有無を確認し、楽しみの一つとしてゆっくりと寛いだ気分に入浴をして頂くよう支援している。一人ひとりの健康状態を見極め希望やタイミングに合わせて楽しめるよう入浴して頂いている。	「では、さわやかに行きましょうか」と入浴拒否の人には入浴と言わず言葉を変えたり、機嫌よく散歩から帰って入浴する流れにする等、その人に合わせて気持ち良く入浴してもらえる工夫をしていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付かれない時には温かい飲み物を飲みながらお喋りをする等配慮している。居室の温度も個々の適温に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個人ケースに保管し、全職員に分かるよう徹底している。服薬は利用者全員に手渡しして、飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りや食事作り、お花の手入れや草取り、洗濯物たたみ、色々な手作業等、得意な分野で一人ひとりの力を発揮してもらい楽しんでもらっている。気分転換のため外出も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けたり一緒に買物に行ったり外食に行きます。季節ごとの外出や地域の行事にも参加、外出しています。また、家族に協力してもらって古い友人に会いに出掛けたり、お墓参りにも行きます。	時には家族も参加して、桜や藤の花見や紅葉狩り、外食などに出掛けている。「宝くじ買いたい」「最近出てない、どこか行きたい」「化粧品買いに行きたい」等、利用者達のリクエストにも出来る限り応えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者による金銭管理は難しいため持たれていません。物品の購入の依頼があれば立て替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話や手紙を出している。手紙の場合は職員と一緒に考えたりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を作っている。季節ごとの行事も毎月行っている。	ホームの花壇には、正月の出番控えた葉牡丹、裏の畑には季節野菜が植えられて、土いじりの好きな人には嬉しい。「今が食べごろ、皆に配ろう。あんたにも持ってお帰り」ベランダの吊るし柿見て話も弾む。来年の干支・立体貼り絵の共同作品も完成間近だ。あちこちに楽しみがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングテーブル、椅子の配置に配慮したり、絵画や花等の装飾で居心地の良い空間づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれ、使い慣れた馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となり、心の休息にもつながっている。	入所して9年目の人の部屋の壁には、誕生日にホームからプレゼントされた写真入りおめでとう色紙がズラリと並んでいる。可愛い物が好きな人は、縫いぐるみやマスコットなどお気に入りの囲まれて暮らしている。その人らしい居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の居室入口には名札を掲げたり、トイレの場所がわかりにくいことを考慮して扉に分かりやすく大きく表示している		